

アライグマの効果的な被害対策

春季は野生動物にとって出産の季節です。今月は全国的に問題になっているアライグマについて紹介します。

アライグマは北米原産のペット由来の動物で、日本では特定外来生物に指定されています。満1歳から毎年4~5頭を出産する繁殖力の高い動物です。したがって、かごわなを使った徹底した捕獲による根絶が目標です。本県では2004年に益田市で初めて捕獲され、現在では益田市を中心に浜田市や津和野町などへも分布を拡大しつつあります。水辺環境を好んで金魚やコイを食害します。また、木登りが得意で、民家や神社などの屋根裏で出産や子育てをすることがあります。その際には、屋根裏を糞尿で汚したり、断熱材などを破壊するなどの深刻な生活被害を及ぼします。そのため、侵入できる隙間は可能な限りふさぐ必要があります。

農作物の被害では、スイカに丸い穴を空けて、中の果肉をくり抜いて食べたり、トウモロコシの皮を剥いて、きれいに食べていたらアライグマのしわざです。対策としては、トタンやネット柵は登るので、地上から10cm間隔で4本の電気柵を張ります。ただし、常時通電して、下草管理の徹底が必要です。また、金網柵の上に電線1本を張って、登らせて感電させる方法もあります。

なお、生ゴミやくず野菜などを田畑へ捨てないことも、アライグマを引き寄せない対策としては重要です。

(島根県中山間地域研究センター 鳥獣対策科 菅野泰弘)



スイカは中をくり抜いて食べる